

2	0	1	9	年	1	2	月	2	5	日			
記	者	発	表	資	料								
都	市	づ	く	り	部	都	市	政	策	課			
電	話	0	4	2	-	7	2	4	-	4	2	4	8

## 町田市・昭和薬科大学 「健康的に暮らし続けられる持続可能なまちの実現」に向けて まちづくりの推進協定を締結

市と昭和薬科大学は、人材交流や健康づくり、地域協働等に連携・協力して取り組み、学生の人材育成及び地域への愛着醸成と、地域の活性化を図るため、「町田市・昭和薬科大学 健康的に暮らし続けられるまちづくりの推進に関する協定」を締結しました。

この協定は、市が進める南町田拠点創出まちづくりプロジェクトと、大学臨床心理学研究室「セルフメディケーションとまちづくり」研究実践との過去3年間にわたる連携や、2019年度から開始した東京都住宅供給公社「本町田住宅」への学生居住推進による団地再生及び地域コミュニティ醸成の取り組みなどの実績をさらに発展させるために締結するものです。

昭和薬科大学では「地域連携センター」を設置することが決まっており、今後、二者では、2019年11月にまちびらきを迎えた南町田グランベリーパークでの継続した活動をはじめ、大学の研究成果や身近な薬学情報を分かりやすく市民に伝える教育普及活動、地域活動との積極的な連携などに、官学が協力して取り組んでいきます。

薬学とまちづくりという異なる分野をつなげる官学の連携と実践により、市民や学生が健康的に暮らし続けられるまちの実現を目指します。

- 協定名称:町田市・昭和薬科大学  
健康的に暮らし続けられるまちづくりの推進に関する協定
- 協定締結日:12月25日(水)
- 協定締結先:昭和薬科大学(玉川学園3丁目3165番地)  
学長 山本 恵子 氏
- 連携・協力事項
  - ・薬学を通じた市民の健康及び福祉の増進を図るための学習・意識啓発の機会創出
  - ・薬学とまちづくりの相互連携による、子育て推進・健康づくりに資する啓発・交流活動等の促進
  - ・健康づくりをテーマとした地域と大学との連携による新しい研究プロジェクト等の実践
  - ・学生が地域に愛着をもち、地域内において、学生と地域住民との交流を促進する取り組み

## ■ 協定締結までの取り組みと今後の展開

### 【薬学を通じた市民の健康及び福祉の増進を図るための学習・意識啓発の機会創出】

#### ●地区協議会、周辺自治会及び町内会との連携

大学近隣の玉川学園・南大谷地区協議会と連携し、2015年から「玉南まちカフェ」への参加、地域連携の講演会の参加などの連携を続けている。

また、学園祭などで地域住民の健康増進につながる活動を展開している。

今後、大学内に発足する「地域連携センター」を通じた更なる地域連携の取り組みを図る。

#### ●市庁舎1階 多目的スペースで大学の研究内容「薬学」をテーマに出前講座を開催

昭和薬科大学と市が連携して進めている事業や大学の研究成果をパネル展示で紹介し、また、小さな薬草園や白衣や保護メガネを付け研究者になって写真撮影ができる体験スペースを設置するほか、地域活動との積極的な連携や身近な薬学情報を、分かりやすく市民に伝える取り組みを紹介します。

日時:1月27日(月)～31日(金) 主催:昭和薬科大学

### 【薬学とまちづくりの相互連携による、子育て推進・健康づくりに資する啓発・交流活動等の促進】

#### ●青空おくすり教室

市、東急株式会社が官民連携で進めている「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」において、市民協働のまちづくりを進める活動に昭和薬科大学も参画。セルフメディケーションをキーワードに「きらきらプロジェクト」と名付けて学生主体の活動を展開。2017年度から3年間、市民ワークショップ「まちのがっこう祭」などに、「青空おくすり教室」という企画でプログラムを提供。

その一環で、近隣の鶴間小学校での薬物乱用防止教育も、町田薬剤師会の協力のもと実施した。

まちびらき後も「南町田グランベリーパーク」における継続した活動、連携を進める。

#### ●お薬相談カフェ活動

2018年度から市と町田地域子育て相談センター、さらに町田市薬剤師会が連携し、「地域の子育て家庭のお薬に関する悩みを相談できるカフェ」を昭和薬科大学内で開催

2019年度においても、9月と11月に「お薬相談カフェ」を実施。キャンパスを開いて場を設定することで、地域子育て相談センター、子育て世代の市民、薬剤師など、参加者が有意義な体験をすることができる貴重な機会となっている。

#### ●赤ちゃん親子が参加する授業

「赤ちゃん親子が参加する授業」は、町田地域子育て相談センターとの協働事業として、2018年度から実施している。

幼い子どもと接する機会が少ない大学生が赤ちゃんに触れ合うと同時に、親御さんから育児の楽しさ・大変さを直接聞き、さらに地域の子育て支援の仕組みについて学ぶ。赤ちゃんの父母にとっては育児を通して若い世代に経験を伝えられる社会貢献の場ともなっている。

### 【健康づくりをテーマとした地域と大学との連携による新しい研究プロジェクト等の実践】

#### ●大学施設活用や地域交流により、健康・福祉の増進に貢献し、新しい研究プロジェクトを実施

2018年度から、大学近隣の南大谷小学校が“3年生の「地域巡り」”の授業で植物園に来園し、薬になる植物について学んだり、池の中の水生昆虫を観察したりしている。

協定締結後は、新しい研究プロジェクトを通して、さらに地域貢献を進める。

### 【学生が地域に愛着をもち、地域内において、学生と地域住民との交流を促進するための取り組み】

#### ●本町田住宅での地域活性化活動

2019年4月に昭和薬科大学、東京都住宅供給公社(以下、「JKK」という。)で地域コミュニティの活性化に向けた連携協定を締結。JKKの本町田住宅に大学生の居住を促進し、団地再生及び地域活性化を目的として、学生と自治会の交流による地域活動(画鑑賞会、もちつき、夏祭り、運動会等)を行っている。将来医療人となる薬学生にとってはコミュニティでの活動は多世代交流を通じたコミュニケーション能力の醸成など多様な成長の機会となっている。

今後は、学生と地域住民との多世代交流を進め、活気あるコミュニティを形成するとともに、他団地・周辺住宅地における展開も検討していく。